南極ものがたり No.33

◆ 野外オペ「テーレン」その④

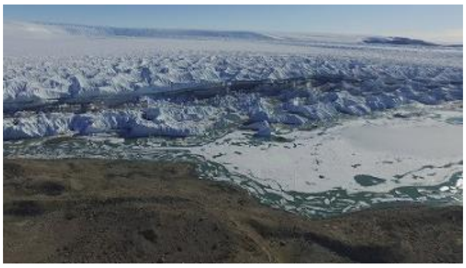
対空標識を各所へ設置

11日。6:30 起床。パンとスクランブルエッグで朝食を済ませました。10時、土井、川又隊員と私の3人でRTK‐GPS測量に出発。RTKとは、ﾘｱﾙﾀｲﾑｷﾈﾏﾃｨｯｸの略称です。前号で紹介したｷﾈﾏﾃｨｯｸGPSは、位置データを帰国後取得しますが、RTKは、若干精度は劣るものの基準点からの電波送信により、その場でデータを得ることが出来ます。まずは、三角点に基準点を設置します。その後は、機材を背負い移動式GPSを持って、前日設置した対空標識のGPS測量を行います。私は、測量中激しい腹痛に見舞われ、やむなく一時下山しました。(;´д｀)トホホ・・・。昨晩の刺身が原因？しかし、ほかの隊員は大丈夫。案外、デリケートな体質なのでした。

基準点 GPS と電波送信器

昼食後、4名でUAV（ﾄﾞﾛｰﾝ）空撮に向かいました。ドローンが破損して使用できなくなりましたが、性能は劣りますが別機種の予備を準備していました。用意周到ですね。川又、白水隊員が訓練してきた成果を試す時です。バッテリーをセットし、操縦パネルを起動し、いざ離陸。蜂の羽音のような音を発しながら、飛んで行きました。着陸後はすぐにパソコンで映像の確認です。後に、映像データから3D画像を作成したり、輝度解析により地表岩盤の風化度を表す指標を探る研究をしたいと考えているそうです。

ドローン画像① キャンプサイト


ドローン画像② スカーレン氷河とスカーレン（右上）

テーレンを舞う ドローン

◆ JARE57 隊員紹介

渡辺 浩志（52） 夏隊同行者 教員派遣 愛媛県出身

愛媛県立新居浜西高等学校

氷河を背に気取って三角点に立つ渡辺隊員

県立西条高校から岡山大学理学部地学科に進学（北大志望も、学力不足で断念）。卒業後、県立高校教諭として新居浜西高校に赴任。その後、土居、新居浜商業、西条、松山北で勤務し、平成25年より再び初任校の現職場に赴任。本年度で教員30年目となる。気象予報士と剣道六段の資格を持つ。小学生時、2代目南極観測船「ふじ」の物語を学習し、それ以来、観測隊に憧れる。その夢や地学教員だった恩師の影響も受け、地球科学の方面に進む。しかし、在学時の不勉強がたたり、あえなく夢を断念。新「しらせ」となった第51次観測隊より、「教員派遣プログラム」が始まることを知り、若き日の夢が再燃。応募を続けるも、落選が続く。50歳を超えた直近2回は、夢をあきらるための応募であった。もう最後にしようと決めた今回、運よくチャンスを頂けた。南極授業という大きな任務があるが、二度とない機会を満喫したい。皆さんへは「行く先の天気を知りたければ、上を向いて歩きましょう」とアドバイス。帰国後は、剣道七段に挑戦・・・？

◆ 定時交信

毎晩20時。野外オペチームは、昭和基地通信室と無線で定時交信を行います。現地の気象概況（気圧・気温・風速・雲量 etc.）や人員、装備に異常がないかの確認を行います。

云わば、命の通信です。

2016.2.24.

気象データを測定

通信内容を記録